

心と体の性別が一致しない性同一性障害（GID）は、世界保健機関（WHO）の国際疾病分類に定められた疾患だ。原因は諸説あり、はっきりしていないが、脳の性別（心の性）を決める胎児期に受けた性ホルモンの影響が有力視されている。

「親の育て方や環境が引き起こすのではない。男装、女装といった趣味の問題でもない」。GIDの治療施設・岡山大病院（岡山市）の中塚幹也教授は強調する。

だが、この疾患に対して誤ったイメージを抱いている人は多い。それは、まだ未成熟な学童期から当事者の心を追いつめていへ。

見つめて心の性

性同一性障害のいま

先生も対応分らない

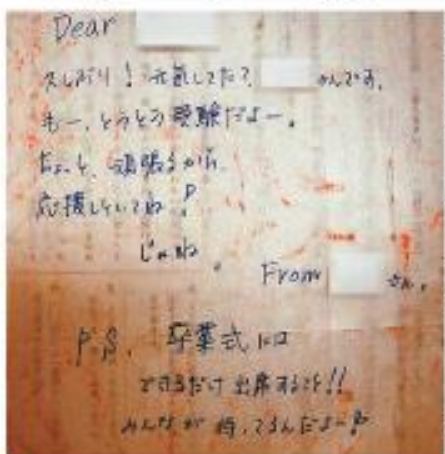
中塚教授が岡大病院の受診者六百六十一人を対象に調査した結果、九割が小中学生までに自分の性への違和感を自覚していた。

四人に一人が不登校を、三人に一人が中学までに自傷行為、自殺未遂を経験。調査からは、原因が分からないまま一人で思い悩む姿が浮かび上がる。

岡山県南に住む二十代の平井雄さん（仮名）は、体は女性だが、小学生の時、女子の制服が嫌だった。

スカートでなくジャージのスポン姿で登

④ 学校



校し、クラスでは「浮年」で不登校になった。いた」存在。中学生の同級生から「みんなころは髪を短く切り、が待ってるんだよー」付いたあだ名は、男などと寄せ書きももら女」。友達を失いたく、つたが、高校進学はあないとの思いから誰に「君、おも相談できず、中学三かしくないよ」と先生

が言ってくれたら、随分気が楽になったのに。誰か、障害を受け入れてくれる人がほしかった」

岡山県では、国の学習指導要領にないという理由で、小中学校の授業でGIDについて不登校の平井さんが心配する同級生からもらった寄せ書きの一部。だが、学校に行くとほめてもらった

行ったアンケートで男児を教育委員会が女児は、回答した三百人余として受け入れた例はありの95%が「学校で教えるべき」とした。

一方、「クラスに悩む子どもがいたら、どうするか」の問いには「他の教員と相談」が63%、「どうしてよいかわからない」が8%。岡山県は「先生も対応の仕方が分らず、困っているのが実情。治療施設について教えられ、早期通院につながる自殺も防げる」と計画だ。

GID当事者の副代表を色分けすると、学校で行き場を失う子どもがいる。兵庫県では二年前、GIDの小中学生

男と女で画一的に性色分けすると、学校で行き場を失う子どもがいる。兵庫県では二年前、GIDの小中学生